

「著作権教育」としての学習内容

法の中身を知る

「著作権教育」の学習のねらい

著作権法の基本的な内容を知る。

- 著作権法は何のためにあって、何の役に立っているのかを考えさせる。
- 著作権法が、私たちの生活にどのように入り込んでいるのかを意識させる。

生徒の活動

- 著作権法の本質を知る。
- 著作権法の具体的な中身を知る（簡易）。

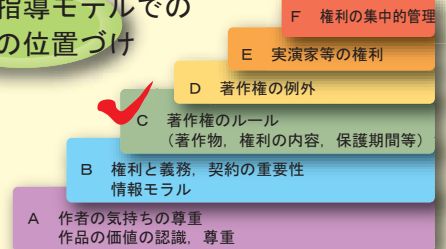
「著作権教育」の指導のポイント

- 著作権について、生徒がどのように意識し、どのように考えているかを、簡単なクイズ形式で問いかけ、挙手させることでクラス内の動向も知る。
- 著作権法がなぜ法律になったかを考えさせたり、問いかけたりしながら説明する。
- 著作権法をいやいや守るのではなく、必要だから守るという考え方を浸透させる。

これだけは！ 押さえない指導内容

- 著作権法の基本的な内容を理解させる。
- 著作権法の基本的な考え方を理解させる。

段階的指導モデルでの 本事例の位置づけ



具体的な展開例

著作権法の基本的な内容について、次のポイントを話し合う。

- 簡単なクイズ形式で次のような質問をし、著作権法の必要性を考えさせる。
 - ①「著作権には期限がある…… ○か×か」
 - ②「著作権は小学校に行く前の子どもにはない…… ○か×か」
 - ③「著作権は届け出が不要である…… ○か×か」
 - ④「著作権法に違反すると禁錮刑である…… ○か×か」
- 自分の作品を他人にそのままねざれると作者が創作意欲をなくする。その上、まねした他人がその作品を売れば、自分に収入として入るはずだった対価がもらえない。そのためその対価を次の創作に活かすことができなくなる。
- 永遠に作品に著作権が存在すると、逆に創作活動に制限がかかってしまって、新たな作品を生み出しにくくなる。
 - ➔ 著作者の権利を保護することも大切である。一方、一定期間の保護期間を設けることは、社会的文化的所産である著作物を自由に利用できるようにし、文化の発展に寄与することを理解させることは大切である。
- 法律があるから仕方がなく守るのではなく、多くの才能ある人たちが、作品を生み出し続けるために守ることが必要だと考えさせる。
 - ➔ 著作者の権利を保障することは創作活動を継続することにより、価値の高い作品を創作する機会を与えることにつながることを理解させる。

この事例の実践に参考となる教材・資料

文化庁 「著作権なるほど質問箱」(著作権Q & A)

<http://chosakuken.bunka.go.jp/naruhodo/mdl.asp>

(社)日本教育工学振興会 「やってみよう 情報モラル教育」(著作権に関わる事例)

<http://kayoo.info/moral-guidebook-2007/jirei/more.php>

